## TOSHIBA

## USB MOドライブ 640MB 取扱説明書

## IPC5034A



ご使用の前に、『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しくお 使いください。

お客様に安全に作業していただくための注意事項です。

## もくじ

もくしてない もくしてい もくしてい しんし たい しんし わいし おいしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しん	ジー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1章 1 2 3 4 5	ご使用の前に21同梱品の確認22設置について23取り扱いについて26使用上のお願い30各部の名称と機能32
2章 1 2 3 4	<b>ドライバの設定</b> 35 インストールを始める前に 36 インストール 37 インストール後のドライバの確認 40 アンインストール 42
3章 1 2	接続について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
4章 1 2 3 4	本装置の使い方・49電源の入れ方、切り方50ドライブの認識確認52MOディスクの使用53パソコンをご購入時の状態にした場合63
5章 1 2	<b>故障かな?と思ったら・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b> 65 まず確認してください・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6章 1 2	付録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
7章 1	<b>修理サービスのご案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b> 79 ユーザサポート窓口のご案内 ・・・・・・・・

## 安心してお使いいただくために

ご使用の前に、この「安心してお使いいただくために」と本書の内容をよくお読みのうえ、正しくお 使いください。

本書をお読みになった後は、本機のそばなど、いつも手元に置いてご使用ください。

本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、お買い求めいただいた製品を安 全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

お子様がお使いになるときは、保護者の方が本書の中身をお読みになり、正しい使い方をご指導ください。

### 表示の意味



#### 図記号の意味



具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示しています。

#### めんせきじこう 免責事項について

地震・雷および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害(事業利益の損失・事業の中断・記憶内容の変化・消失など)に関して、当社は一切責任を負いません。 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアなどとの意図しない組み合わせによる誤動作やハングアップなどから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。 本装置の取り扱いについて

もし、異常な臭いがしたり、異常音がしたり、発煙し たときは、すぐに電源を切り、ACアダプタをコンセン トから抜くこと そのまま使用すると、火災、故障のおそれがあります。

「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」に点検を依頼して ください。

コップ、花びんなど、液体の入った容器を上にのせた り、近くに置かないこと 液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電のおそれがあります。 また、物が落ちたときにけがをするおそれがあります。 もし、液体が内部に入ったときは、電源を切り、ACアダプタをコ ンセントから抜いて、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してくださ い)」に点検を依頼してください。

分解・改造・修理しないこと 火災、感電、故障、ケガのおそれがあります。 修理は、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」に点検 を依頼してください。

本製品を分解した場合、保証やその他のサービスは受けられません。

ふろ場など、水がかかったり、湿気の多いところに置か ないこと

感電のおそれがあります。

もし、落としたり、強い衝撃を与えたときは、すぐに電 源を切り、ACアダプタをコンセントから抜くこと そのまま使用すると、火災、故障のおそれがあります。 「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」に点検を依頼して ください。

ACアダプタを コンセントから抜け



禁止







コンセントから抜け



本装置、ACアダプタはサービスマン以外の方は絶対に 分解しないこと

内部にはレーザー光線が使用されており、万一、分解または不適切な 使用、修理などがありますと、人体への悪影響(目の痛みなど)をおよ ぼすおそれがあります。

電源コードを取り扱うときは次の点を守ること

・傷つけない ・加工しない

### 電源コード、ACアダプタの取り扱いについて

警告

・強く曲げない

・ねじらない ・引っ張らない ・物を乗せない ・熱器具を近づけない ・余ったコードを束ねない ・ドアにはさまない
 ・加熱しない ・コードをつぎ足さない ・机、家具などを乗せてつぶさない ・クギやステープルで固定しない 守らないと、火災、感電のおそれがあります。もし、電源コード が傷ついたときは、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してくださ い)」に点検を依頼してください。

ACアダプタはAC100Vコンセントに差し込むこと それ以外のコンセントに差し込むと、火災のおそれがあります。

コンセントや配線器具の定格をこえる使い方をしない こと

タコ足配線などで定格をこえると、火災、感電のおそれがあります。



強制







強制



電源プラグの刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合は、電源を切り、電源プラグを抜いてから乾いた布などで清掃すること

そのまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。

電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込むこと 確実に差し込んでいないと、火災、感電のおそれがあります。





**必ず、本装置付属のACアダプタを使用すること** 本体付属以外のACアダプタを使用すると、電圧や+、-の極性が 異なることがあるため、火災、発煙、故障のおそれがあります。



\注意

### 本装置の取り扱いについて

ステープル、クリップなどの金属類を内部に入れない こと

ショートし、発煙、発火のおそれがあります。

雨、きりなどが直接入り込むような場所では使用しな いこと

雨、きりが付着して、火災、感電のおそれがあります。

ぐらついた台の上、かたむいたところなど不安定な場 所に置かないこと

落ちたり、たおれたりしてケガするおそれがあります。

アプリケーションソフトの作動中に電源を切らないこと データ消失のおそれがあります。

**ぬれた手で、ACアダプタを抜き差ししないこと** 感電のおそれがあります。

消費電力の大きな機器(コピー機、シュレッダー、空 調機器、大型プリンタなど)と同じコンセントから は、電源をとらないこと

誤動作する可能性があります。



禁止

埜止

禁止

禁止

禁止

メディア(MO)に記憶された内容は、故障や傷害の原 因にかかわらず保証いたしかねます。

電源コード、ACアダプタの取り扱いについて

通電中のACアダプタに長時間ふれないこと 長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどのおそれがあり ます。

ACアダプタをコンセントから抜くときは、電源コード

電源コードを引っ張ると、コードが傷つき、火災、感電のおそれ

肌の弱い方は、特にご注意ください。

を引っ張らないこと

があります。

ントに差し込むこと



注意

本装置を移動させる場合は、必ずACアダプタをコンセ ントから抜くこと コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

本装置のACアダプタと他のプラグを隣接して差し込む ときは、それぞれ無理な力がかからないようにコンセ







禁止







禁止

### ご使用上のお願い 本装置の使用環境、保管場所および取り扱いについて 直射日光が当たる場所、しめ切った車の中、暖房機器 の近くなど、温度が高くなるところに置かないでくだ さい。 **故**障、 誤動作記憶内容の消失の原因となります。 禁止 極端に低温になるところに置かないでください。 故障、誤動作記憶内容の消失の原因となります。 禁止 急激な温度変化を与えないでください。 結露が生じ故障、誤動作記憶内容の消失の原因となります。 結露が生じたときは、室内に置き、自然乾燥させてから電源を入れ てご使用ください。 禁止 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かな いでください。 故障、誤動作記憶内容の消失の原因となります。 禁止 ほこりの多いところに置かないでください。 故障、誤動作記憶内容の消失の原因となります。内部にほこりが 入ったときは、お買いあげの販売店または「お客様ご相談窓口(巻 末を参照してください)」に点検を依頼してください。 禁止 振動が強いところに置かないでください。 故障、誤動作記憶内容の消失の原因となります。 禁止 風通しのよい場所に置いてください。 装置の通風口をふさいだり、装置の発する熱がこもりやすい場所に 置いたりすると装置内部の温度が上がり、故障、誤動作記憶内容の 消失の原因となります。 強制

お手入れするときは、ベンジン、シンナーなどを使用 しないでください。

変質、変形、変色の原因となります。

### MOディスクのデータ保護について

本装置のランプが点灯中は、電源を切ったり、本装置 のイジェクトボタンにふれたりしないでください。 データが消失するおそれがあります。

一度使用したMOディスクをフォーマットする場合はMO ディスクの内容を確認してください。

フォーマットを行うと、そのMOディスクに保存されていた情報は すべて消えます。

本装置に保存しているデータや、重要な文書などは、 万一故障が起こったり、変化 / 消失した場合に備え て、定期的にMOディスクに保存しておいてください。 次のようなときに本体内の文書などが消失するおそれがあります。

- ・誤った使い方をしたとき
- ・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき

 ・故障、修理のとき・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき 本装置に保存した内容の損害については、当社は一切その責任を 負いませんので、あらかじめご了承ください。

本装置に装着されたMOディスクのフォーマットは、そ の中に必要とする情報(ファイル)がないことを確認 した後に行なってください。

フォーマットをすると、保存されていた情報(ファイル)はすべて 消えます。

新規オプションやアプリケーションソフトを使用する 前に、作業途中などで保存していないデータなどを本 装置に保存してください。 保存しないとデータなどが消えるおそれがあります。



強制



強制







MDディスクの使用環境、保管場所および取り扱いについて

MOディスクは消耗品ですので、大切なMOディスクは別の MOディスクにコピーしておくことをおすすめします。



シャッター部は開けないでください。 磁性面(ディスク面)が傷ついたり、汚れると、使用できなく なります。

ラベルは正しい位置からはみ出したり、重ね貼りしない でください。

本装置の故障の原因となります。

ラベルに名前(タイトル)を記入するときは、鉛筆を使用 しないでください。

芯のカスが入ると故障の原因となります。油性のフェルトペンでご記入ください。

水がかかったり、湿気の多いところに置かないでくだ さい。

ぬれると使用できなくなったり、本装置の故障の原因となり ます。

近くにコップなど、液体の入った容器を置かないでく ださい。

液体がこぼれてぬれると、使用できなくなったり、本装置の 故障の原因となります。







禁止

禁止









用途制限について

本製品は人の生命に直接関わる装置等(\*1)を含むシステムに使用できるよう 開発、制作されたものではないので、それらの用途に使用しないこと。

\*1:人の生命に直接関わる装置等とは、以下のものを言います。 (生命維持装置や手術室用機器などの医療用機器)

本装置を、人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置等 を含むシステム(\*2)に使用する場合は、システムの運用、維持、管理に関し て、特別な配慮(\*3)が必要となるので、「お客様ご相談窓口(巻末を参照し てください)」に相談してください。

- \*2: 人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置等を含む システムとは、以下のようなものを言います。 (原子力発電所の主機制御システム、原子力施設の安全保護系システ ム、その他安全上重要な系統およびシステム) (集団輸送システムの運転制御システムおよび航空管制制御システム)
- \*3: 特別な配慮とは、当社技術者と十分な協議を行い、安全なシステム(フー ル・プルーフ設計、フェール・セーフ設計、冗長設計する等)を構築する ことを言います。

### 国内向けの仕様です

本製品の仕様は国内向けです。海外での保守サービスは行なっておりません。 また、本体付属の電源コードは、国内向けAC100Vの仕様なので海外では使用で きません。

## はじめに

このたびは東芝「USB MOドライブ 640MB」をお買い求めいただき、ありがとう ございます。

本書は、「USB MOドライブ 640MB」の取り扱い方法および注意事項について説 明しています。

ご使用にあたり、この説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分にご活 用くださいますようお願いします。

また、本書は必要に応じてお使いいただけるように、取り出しやすい場所に保 管してください。

#### 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータ業 界基準(PC-11-1988)に適合しております。

#### 瞬時電圧低下対策について

この装置は、社団法人 日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコン ピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、 ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じること があります。

### 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に 基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを 目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使 用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

### レーザー製品の取り扱いについて

- ・本製品は、レーザーシステムを使用しています。本製品を正しくお使いいただくため、説明書をよくお読みください。また、お読みいただいた後も必ず保管してください。修理などが必要な場合は、サポート窓口に依頼してください。
   ・本説明書に記載された以外の調整・改造を行うと、レーザー被爆の原因になりますので絶対におやめください。
- ・レーザー光に直接被爆しないため、絶対に製品を分解しないでください。

#### お願い

- ・本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
- ・本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
- ・メディア(MOディスク)に記録された内容は故障や障害の原因にかかわら ず保証いたしかねます。
- ・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくは コピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。 本書の内容について万一不可解な点や誤りなど、お気付きの点がございました ら、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」までご一報ください。 保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

#### 本サポートソフトウェアについて

- ・本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に 限り、1部だけ複写できるものとします。
- ・本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権はお客様に移転 されません。
- ・本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
- ・書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。

#### ご使用上の注意

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法に より、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物 を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことがで きます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製(データ形式の 変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行う と、"著作権侵害""著作者人格権侵害"として損害賠償の請求や刑事処罰を受 けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合は、著作権 法を遵守の上、適切なご使用を心がけて頂けますよう、お願い致します。

#### Trademarks

- ・Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporation の米国およびその他 の国における登録商標です。
- ・その他の商品名、商標は各社の商標または登録商標です。

## 本書の構成

本書の構成を次に示します。使用目的に合わせて必要なところからお読みください。







## 本書の読み方

記号の意味

	重傷を負う可
<ul> <li>・</li></ul>	、または、物
	10.90
お願い ・データの消失や、故障、性能低下を起さないために いこと、仕様や機能に関して知っておいてほしい。	こ守ってほし

★ モ ・知っておくと便利なことを説明しています。

### 画面の表し方

 画面の全部、または一部を表します。

 【例】

 Total=××××KB

 このように画面上または本文中の記号を×

 で表している場合は、実際には様々な数字

 や記号が入ります。

### 入力するキーの表現

操作で入力するキーを本文中で表すときには、説明に必要な部分だけを囲んで 示しています。



### 操作の表し方

操作や作業は、次のように示します。 【例】 操作が1つですむ場合は、次のように示します。 Y キーを押す

キーを「+」でつないで書いてあるときは、前のキーを押したまま離さずに次のキーを押してください。

<u>Ctrl</u>+<u>Alt</u>+<u>Delete</u>キーを押す

<u>Ctrl</u>キーと<u>Alt</u>キーを押したまま<u>Delete</u>キーを押します。

### 用語について

本書では、次の用語について定義します。 本装置 ・・・・・・ 「USB MOドライブ 640MB」本体を示します。 システム ・・・・・ 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレー ティングシステム(OS)を示します。 アプリケーション または アプリケーションソフト ・・ アプリケーションソフトウェアを示します。



本装置は、次のような特長をもっています。

簡単接続のインターフェース、セットアップが簡単な使 い易い親切設計

小型・軽量なデザイン

高信頼性・メンテナンスフリー設計

高い静粛性を誇る、スーパーサイレントメカニズム

*ディスクを用途で選べる、ダイレクトオーバーライト対 応・ディスク完全下位互換* 



# ご使用の前に

本製品をお使いいただく前に知っておいて欲しいこと、注 意などについて説明します。

## 1 同梱品の確認

#### 主な同梱物を次にあげます。

万一、本製品に不都合な点が生じた場合は、「お客様ご相談窓口(巻末を参照 してください)」までお問い合わせください。





## 本装置の設置について

本装置は横置き、または縦置きに設置することができます。

- お願い:本装置の電源がOFFになっていることを確認してください。
  - ・本装置に接続されている電源コードなど、すべてのケーブル類がはずれている
  - ことを確認してください。
  - ・十分な作業スペースをとってください。
  - ・平坦で滑りにくく、傷の付きにくい場所で作業を行ってください。

設置方法については以下のように行ってください。

### 横置きの場合

1 本装置の上面を上にし、図のように設置する



 ☆注 意 ・本装置を図のように逆さまに設 置しないでください。 故障の原因となります。



1<sub>章</sub>

ご使用の前に

### 縦置きの場合

1 手動排出用ピンを付属の縦 置き用グラブスタンドの裏 に取り付ける



2 付属のグラブスタンドの溝 に、本装置の側面を合わせ るようにしてセットする 縦置きでセットするときは、縦置き 用グラブスタンドの「△」マークと 本装置底面の「△」マークを合わせ てセットしてください。また、セッ トするときは本装置を必ず両手で 持って設置してください。



設置完成例





## 3 取り扱いについて

## 電源コードについて

電源コードは大切に扱ってください。コードに傷がついたり、電線が露出していると火災・感電の危険があります。次のことを必ず守ってください。

- ▲ 注 意 ・ACアダプタは、付属のものを使用してください。 市販のACアダプタや他の電気製品のACアダプタには、形状が同じでも定格電 圧・電流が異なるもの、+、-の極性が異なるものがあります。
  - お願い・コンセントから抜くときは必ずACアダプタを持って引き抜いてください。
    - ・コードの上に重いものを載せないでください。
    - ・コードを無理に曲げたり、ねじったり、結んだり、つぎ足したりしないでくだ さい。
    - ・熱器具に触れないよう、十分な距離をとってください。



- 注意・電源が入った状態でMOディスク挿入口を手で開けたり、挿入口から鏡や金属 などの反射物を入れないでください。また、挿入口に目を近づけたりしない でください。
  - ・本装置のBUSYランプが点灯中は、データの書き込み、読み取り中です。 次のことを行うと、MOディスク内のデータが消失することがあります。
    - ・本装置のイジェクトボタンを押す
    - ・パソコン本体の電源を切る

お願い:・MOディスクをセットするときは、無理な力をかけないでください。

- ・本装置のアクセスランプが点灯中は、イジェクトボタンは押さないでください。故障の原因となる場合があります。
- ・かたよった位置にラベルを貼ったMOディスクは使用しないでください。 異常振動の発生や故障の原因となります。
- ・本装置を使用しないときは、必ずMOディスクを取り出しておいてください。

## <sup>(ライ</sup> た。 <sup>こしま読</sup> タの読

### MOディスクを書き込み禁止にする

MOディスクの裏面には、大切な情報を保護するための書き込み保護機構(ライトプロテクトスイッチ)がついています。

これによって、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

#### 書き込み保護をセットするには(書き込み禁止状態)

図のようにライトプロテクトタブを外側に移動させて、穴が開いた状態にしま す。この状態のMOディスクには、データの書き込みはできません。データの読 み込みはできます。

#### 書き込み保護を解除するには(書き込み可能状態)

図のようにライトプロテクトタブを内側に移動させて、穴が閉じた状態にしま す。この状態のMOディスクには、データの書き込みも読み込みもできます。 なお、いずれの場合も「カチッ」と音がするまでライトプロテクトタブを移動さ せてください。



大切なデータが入ったMOディスクは、誤って削除や上書きしたり、フォーマット してしまわないように、ライトプロテクト(書き込み禁止状態)をしておくこと をお勧めします。

### MOディスクの取り扱い

MOディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。MOディスクを 取り扱うときには、次のことを守ってください。

- ●MOディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。 MOディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ●MOディスクは分解しないでください。また、シャッター部は開けないでくだ さい。また、磁性面には触れないでください。磁性面が汚れると使用できな くなります。
- ●長時間M0を使わない場合には、必ずM0ディスクを取り出してください。電源 ONのままM0ディスクを入れっぱなしにすると、M0にアクセスしなくてもM0ド ライブに負担がかかります。
- ●スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。記録した内容が消失するおそれがあります。
- ●直射日光に当てたり、高湿のものに近づけないでください。
- ●本やノートなど重いものを上に載せないでください。

●次の範囲内の環境で保管してください。

保管温度	4~53℃
保管湿度	8∼90%Rh

●ラベルは正しい位置に貼ってください。貼りかえるときは重ね貼りしないでく ださい。

●ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。

- ●保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- ●食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにMOディスクを置かないでください。

使用できるMOディスク

本装置で使用できるMOディスクは次の通りです。

ディスク容量	640MB	540MB	230MB	128MB
従来タイプ				
オーバーライト				1

〇:使用可能

※1 128MBにはオーバーライト(OW)のMOディスクはありません。

市販のフォーマット済みであるMOディスクの場合、OSの種類やMOディスクの フォーマット方法によっては、「MOディスクを認識しない」、「データの読み 書きが遅い」などの問題が発生する場合があります。

このような場合は、ご使用のパソコンで再度フォーマット(物理・論理)を 行ってからご使用ください。

MOディスクが本装置に正しく挿入されていないと、次のようなメッセージの ウィンドウが表示され、MOディスクの読み書きができません。次のようなメッ セージのウィンドウが表示されたら、[キャンセル]または[いいえ(N)]ボタンを クリックしてウィンドウを閉じてください。そのあとMOディスクをもう一度挿 入して、再度アクセスを行なってください。

ドライブX:をアクセスしたとき、「X: ¥にアクセスできません。デバイスの準備ができていません」などのメッセージウィンドウが表示される

フォーマット済みのMOディスクを挿入しても、「ドライブXのディスクはフォーマットされていません。今すぐフォーマットしますか?」というメッセージのウィンドウが表示される

MOディスクのクリーニングについて

MOディスクを長期間使用していると、記録面にほこりや汚れが付着し、データを正しく読み書きできなくなることがあります。これを防ぐために、MOディスクの定期的な(3~6ヶ月ごと)クリーニングをお勧めします。

MOディスクのクリーニングには、市販のMOディスク専用のクリーニングキット (帯電防止剤入り)をご使用ください。

お願い・MFィスクのクリーニングは、クリーニングキットに付属の取扱説明書の指示 にしたがって、正しい方法で行ってください。

市販のレンズクリーニングキットは、本装置内部を汚したり、傷つけるおそれ
 があるため、使用しないでください。

ご使用

の

前

に

## 4 使用上のお願い

## 日常のお手入れと保管・運搬

- ●装置外面部の汚れは、乾いた布で拭き取ってください。汚れがひどい時は、中 性洗剤を少量含ませた布で拭き取ったうえ、乾いた布で乾拭きしてください。
- ●アルコール、シンナーなどの有機溶剤は、印刷された文字が消えたり、装置の材質を侵す危険がありますので、使用しないでください。 また殺虫剤などをかけないようにしてください。
- ●市販のレンズクリーニングキットは、本装置内を汚したり、傷つけるおそれがあるため、使用しないでください。
- ●本装置にMOディスクがセットされた状態で輸送しないでください。特に、電源の入った状態での装置の移動は絶対に行わないでください。 MOディスクや装置内部を損傷することがあります。
- ●本装置にMOディスクがセットされた状態で輸送しないでください。 MOディスクや装置内部を損傷することがあります。
- ●移動時に落とす、ぶつけるなどの強いショックを与えないようにしてください。誤動作したり、故障することがあります。
- ●輸送中の破損防止のため、ご購入時の梱包箱と梱包材をご使用ください。

### 妨害電波・電圧について

本装置はVCCI (情報処理装置等電波障害自主規制協議会)基準に適合している製品ですが、絶対に障害が発生しないということではありません。テレビ、ラジオへの影響がある場合は次のことを試みてください。

●テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える。

●テレビ、ラジオに対する本装置の方向を変える。

- ●テレビ、ラジオから離す。
- ●テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う。
- ●受信機に屋外アンテナを使う。
- ●平衡フィーダを同軸ケーブルに替える。
- ●コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れてみる。

以上のような対策を行なってみてもまったく効果がない場合は、「お客様ご相 談窓口(巻末を参照してください)」へご相談ください。

VCCIマークのついていない周辺機器を接続すると、テレビ、ラジオなどに影響が出ることがありますのでご注意ください。

## 異常や故障の場合

以下のような場合は、ただちにパソコン本体および本機の電源を切り、ACアダ プタをACコンセントから抜いて、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してくだ さい)」にご相談または修理を依頼してください。

- ・故障
- ・異常な臭いや過熱・異音
- ・正しく接続しているにもかかわらず表示されない
- ・
   使が出る

▲ 警告 ご自分で修理や改造、または分解しないでください。 火災や感電、ケガのおそれがあります。

### 修理・サービスについて

保証期間中および保証期間後の保守サービスについては、「お客様ご相談窓口 (巻末を参照してください)」にご相談ください。

## 廃棄について

本装置、および付属品の廃棄については、地方自治体の条例、または規則に 従ってください。

1<sub>=</sub>

ご使用の前に

## 5 各部の名称と機能

## 本装置正面

電源ボタン ボタンを押すことにより

電源をON/OFFします。

電源ランプ

電源をONにすると、緑色 に点灯します。

MOディスク挿入口 MOディスクの出し入れのと きに使用します。 装置内部にほこりや異物が 入るのを防ぐため、MOディ スクが挿入されていないと きは閉じています。



(注)図と異なる場合があります。

#### MOディスク手動排出穴

通常の方法でMOディスクを取り出せなくなった場合に、付属の手動排出用ピンをこの穴に差し込んで強制的にMOディスクを取り出します。

イジェクトボタン

MOディスクを取り出すときに押します。

BUSY (動作中) ランプ

本装置がMOディスクへ読み書きしている間、橙(だいだい)色に点灯します。 ※本装置がMOディスクに書き込みしている間(BUSYランプ点灯中)は、電源 ボタンを押しても電源をOFFできないようになっています。

※装置内部に異常が発生した場合には、BUSYランプは、一定の間隔で橙色の 点滅を繰り返します。対処方法については、「第5章 故障かな?と思っ たら ②トラブルシューティング」のQ2、Q3をご覧ください。

注 意 電源が入っているときには、イジェクトボタンを使用しないでください。 回転中のMOディスクのデータや本装置がこわれるおそれがあります。

## 本装置背面

USBポート

付属のUSBケーブルの一方の コネクタ(Bタイプ)を接 続します。 もう一方のコネクタ(Aタ イプ)は、パソコン本体側

のUSBポートに接続します。

DC電源端子

同梱のACアダプタを接続し ます。



(注)図と異なる場合があります。



# ドライバの設定

同梱のセットアップディスク(FD)を使ってのドライバの 設定方法について説明しています。

## 1 インストールを始める前に

## セットアップディスクのバックアップについて

セットアップを始める前に本装置付属のセットアップディスクのバックアップ (ドライバディスクの複製)をおとりください。詳しくは、パソコン本体の取 扱説明書をご参照ください。

ドライバのインストール方法はシステム(0S)によって異なります。本書の手順にしたがって、ご使用のパソコン本体のシステムに合わせたドライバのインストールを行ってください。

お願い ドライバのインストール作業中にノート型パソコン本体のバッテリが切れないように、ノート型パソコン本体はAC電源でお使いください。
インストール

#### Windows 2000

Windows2000の場合、ドライバのインストールは不要です。本装置とパソコンを USBケーブルで接続するだけで、本装置が認識されます。

### Windows 98/Me

- 1 パソコンの電源をONにする
- 2 付属の「セットアップディスク(FD)」をパソコンのフ ロッピーディスクドライブに挿入する
- 3 [スタート] [ファイル名を指定して実行]をクリッ クする

[ファイル名を指定して実行]画面が表示されます。

4 名前の欄にコマンドを以下 のように入力し、「OK」ボ タンをクリックする  
 フィイル名を指定して実行
 ? X

 開きたいプログラム、フォルダ、ドキュメント、またはインター ネットリソースの名前を入力してくたさい。
 名前位:

 名前位:
 AWDRIVERWInstallexe

 OK
 キャンセル

「A:¥DRIVER¥Install.exe」と入力 します。

[デバイスドライバインストール] 画面が表示されます。

5 「続行」ボタンをクリック する インストールを開始し、以下の画面 が表示されます。



6「OK」ボタンをクリックする システムが再起動しますので添付の 「セットアップディスク(FD)」を 取りはずしてください。 <mark>デバイストライパ・インストール
インストールが完了しました。</mark>
インストールが完了しました。
インストール作業を反映させるために
コンピューターを再起動します。
OK キャンセル

ドライバの設定

これでドライバのインストールは終了です。

### IOSFIXのインストール

Windows 98/Me上で、640MB MOディスクを使用する場合、Windows 98/Meの不具 合により一部、画像データが正しく読み出せないことがあります。そのため、 Windows 98/Me上で640MB MOディスクを使用する場合は、次の手順で付属のセッ トアップディスク(FD) よりインストールしてください。

- 1 パソコンの電源をONにする
- 2 付属の「セットアップディスク(FD)」をパソコンのフ ロッピーディスクドライブに挿入する
- 3 [スタート] [ファイル名を指定して実行]をクリッ クする

ファイル名を指定して実行

名前(Q): A:¥IOSFD:\¥Setup.exe

T

[ファイル名を指定して実行]画面が表示されます。

4 名前の欄にコマンドを以下 のように入力し、「OK」ボ タンをクリックする

「A:¥IOSFIX¥Setup.exe」と入力し ます。 [IOSFIXセットアップ]画面が表示さ

れます。

5 「次へ」ボタンをクリック する

次頁の画面が表示されます。

1	10SFDX ##h7#7*	×
	■ DOFDX セジケラノ *10SFDC*をインストールします。 インストールを続けるには「カヘ」ボタンを押してください。 なお「キャンセル」ボタンでインストール作業を中止することができます。	
	**	Verk(C)

開きたいプログラム、フォルダ、ドキュメント、 ネットリソースの名前を入力してください。

OK キャンセル

? | ×

•

参昭(B)

6 ディレクトリ名を入力し、 「次へ」ボタンをクリック する 以下の画面が表示されます。	▲ ISSERV をッドネッ     ** DSFED/を下記のティレクドリにインストールします。     このティレクドリが存在しない場合は自動的に作成されます。     別のドライブ・ディレクドリにインストールしたい場合は、下の入力欄にドライブ名を含め     たいリインマイ・レールを大き加ていなです。     マーンクトールを大き加ていなです。     マーンクトールを大き加ていなです。     マーンクトールを大き加ていなです。     マーンクトールを大き加ていない。     ティレクドロ: 国知の意味     GTOSED     GTOSED     (属る(B))     (なへ(B))     キャンセル(2)	2 <sub>章</sub>
7 グループ名を入力し、「次 へ」ボタンをクリックする 以下の画面が表示されます。		ドライバの設定

8 「次へ」ボタンをクリック する インストールを開始し、以下の画面 が表示されます。

OSFDX セットアップ ×
「下の設定値でインストールを開始します。 ろしければり次へJボタンを押してだだい。
設定値を変更したい場合は、「戻る」ボタンで値を設定し直してください。
ディレクトリ: C×IOSFIX グループ名: IOSFIX
ディスク空き容量: 3721.0MB インストールサイズ: 226.8KB
< 戻る(B) 次へ(N)> ++>セル(C)

9 「Windowsの再起動」ボタ ンをクリックする システムが再起動しますので付属の 「セットアップディスク(FD)」を 取りはずしてください。



これでIOSFAXのインストールは終了です。

# 3 インストール後のドライバの確認

ドライバのインストール終了後、Windowsのデバイスマネージャを使ってドライ バの確認をすることができます。

#### Windows 2000

- 1 [スタート] 「設定」 「コントロールパネル」の順 にをクリックする 「コントロールパネル] 画面が表示されます。
- 2 「システム」アイコンをダブルクリックする [システムのプロパティ]画面が表示されます。
- 3 「ハードウェア」 「デバイスマネージャ」タブの順に クリックする [デバイス マネージャ]画面が表示されます。
- 4 「USBコントーラ」、およ び「記憶域ボリューム」タ ブをそれぞれダブルクリッ クする

右図のように表示されていることを 確認してください。

- ・USBコントローラ USB 大容量記憶装置デバイス
- 記憶域ボリューム
   汎用ボリューム



#### Windows 98/Me

- 1 [スタート] 「設定」 「コントロールパネル」の順 にをクリックする [コントロールパネル]画面が表示されます。
- 2 「システム」アイコンをダブルクリックする [システムのプロパティ]画面が表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする [デバイス マネージャ]画面が表示されます。
- 4 「SCSIコントーラ」、および 「ユニバーサルシリアルバス コントローラ」タブをそれぞ れダブルクリックする 右図のように、本製品のドライバ名 「TOSHIBA USB-MO」が表示されてい ることを確認してください。



# ④ アンインストール

ドライバをアンインストールする場合は付属のセットアップディスク(FD)を 使用し、IOSFIXをアンインストールする場合は[スタート]-[プログラム]-[losfix]グループ内の「アンインストーラ」を使用します。 ドライバのアンインストールを行う前に、動作中のアプリケーションはすべて 終了していることを確認してください。

## ドライバのアンインストール

- MOディスクを読み書きしていないか、またはMOディスク 上のファイルをアプリケーションで開いていないかを確 認する
- 2 本装置からMOディスクを取り出す
- f 3 パソコンに接続されているUSBケーブルを取りはずす
- 4本装置の電源をOFFにする
- 5 必要に応じて本装置に接続されているUSBケーブルを取りは ずす
- 6 付属の「セットアップディスク(FD)」をパソコンのフ ロッピーディスクドライブに挿入する
- 7 [スタート] [ファイル名を指定して実行]をクリッ クする

[ファイル名を指定して実行]画面が表示されます。

8 名前の欄にコマンドを以下 のように入力し、「OK」ボ タンをクリックする

「A:¥DRIVER¥Uninstal.exe」と入 力します。

[アンインストーラ]画面が表示さ れます。



## 9 本製品のドライバ名を選択し「はい」ボタンをクリックする 本製品のドライバ名 「TOSHIBA USB-MO」を選択します。 アンインストールを開始し、次頁の 画面が表示されます。

10「OK」ボタンをクリック する

以下の画面が表示されます。



アンインストーラ

#### 11 「はい」ボタンをクリック する

システムが再起動しますので付属の 「セットアップディスク(FD)」を 取りはずしてください。

これでドライバのアンインストールは終了です。

アンインストー	7
?	アンインストール作業を反映させるために、コンピュータを再起動します。 よろしいですか?
	<u>(北いか)</u> いいえ(N)

### IOSFIXのアンインストール

- MOディスクを読み書きしていないか、またはMOディスク 上のファイルをアプリケーションで開いていないかを確 認する
- 2 本装置からMOディスクを取り出す
- **3** パソコンに接続されているUSBケーブルを取りはずす
- 4本装置の電源をOFFにする
- 5 必要に応じて本装置に接続されているUSBケーブルを取りは ずす
- **6** [スタート] [プログラム] [losfix]の順にク リックし、「アンインストーラ」をクリックする [IOSFIX アンインストーラ]画面が表示されます。

7		10SFIX アンインストーラ
/	・次へ」 ホタンをクリック する アンインストールを開始し、右の画 面が表示されます。	<sup>●</sup> IOSFDC <sup>®</sup> を削切除します。 削除を始めるにはじたヘ」ボタンを押してください。 また「キャンセル」ボタンを押すことでこの作業を中止することができま す。
8	「終了」ボタンをクリック する	次へ(1)>     キャンセル(2)       *IOSFDX アンインストーラ     ×       *IOSFDC*の削除が完了しました。     ×

これでIOSFIXのアンインストールは終了です。



# 接続について

本装置の接続、およびパソコンへの接続ついて説明しています。

# 1 接続の前に

- ケーブルを接続する際には、次のことにご注意ください。
- ・本装置の電源を切る
- ・ケーブル類の取り付け/取りはずしは、必ずコネクタを持って行う
- ・コネクタの形状に注意して挿入する USBケーブルを本装置、およびパソコンに接続する場合、コネクタの形状がそ れぞれ異なります。



お願い・静電気の発生しやすい環境(じゅうたんの上など)での作業は行わないでください。
静電気を帯びることにより、電子部品が故障することがあります。
・作業は湿気やホコリの少ない直射日光のあたらない場所で行ってください。
・ACアダプタ、電源コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、重いものをのせたりしないでください。
ショート、断線による故障のおそれがあります。
・本製品を改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
・ACアダプタを本装置に接続しないときは、ACアダプタをACコンセントに接続しないでください。

 $\mathfrak{z}_{\scriptscriptstyle{\widehat{\Xi}}}$ 

2 接続方法

# 取り付け

- 1 パソコンおよび本装置の電源がOFFになっていることを確認 する
- 2 パソコン側のUSBポートに付属のUSBケーブルの一方のコネ クタ(Aタイプ)を接続する

パソコン側のUSBポートにUSBコネクタカバーが付いている場合は取りはずし、大切に保管してください。

3 本装置のUSBポートに付属のUSBケーブルのもう一方のコネ クタ(Bタイプ)を接続する



- 注意 USBハブやキーボードのUSBコネクタを介して接続すると、供給電力が不足した り、他のUSB機器の影響などによって動作が不安定になる場合があります。必ず パソコン本体のUSBコネクタに接続してください。
  - 4 ACアダプタのコードを、本装置のDC 5V端子に接続する
  - 5 ACアダプタをコンセントに差し込む

/
注 意 本装置から、他のUSB機器へとツリー状に接続することはできません。



### 取りはずし

本装置は、電源をONにしたまま取り付け/取りはずしができるホットプラグに 対応しています。

MOディスクを読み書きしている間に、取りはずしを行うと、データが消失したり、システムがハングアップするおそれがあります。 ホットプラグによる取りはずしは、次の手順で行ってください。

- MOディスクを読み書きしていないか、またはMOディスク 上のファイルをアプリケーションで開いていないかを確 認する
- 2 本装置からMOディスクを取り出す
- 3 パソコンに接続されているUSBケーブルを取りはずす
- 4本装置の電源をOFFにする
- 5 必要に応じて本装置に接続されているUSBケーブルを取りは ずす



# 本装置の使い方

本装置の電源の入れ方、切り方、MOディスクの使い方について説明しています。

# 1 電源の入れ方、切り方

電源を入れる場合、本装置をはじめとする周辺機器の電源をまず入れてから、 パソコン本体の電源を入れるようにしてください。 また、電源を切る場合は、まずパソコン本体の電源を切ってから、本装置をは じめとする周辺機器の電源を切るようにしてください。

- ▲注 意 ・電源のON/OFFを、不必要に繰り返さないでください。本装置ばかりでなく、パ ソコン本体や他の周辺機器の故障の原因になることがあります。
  - ・BUSYランプが橙色に点灯している間は、データの読み書きを行っていますの で、絶対に電源を切らないでください。MOディスク上のデータの一部または全 部が失われることがあります。

### 電源の入れ方

- 1 接続が終了したら、装置前面にある電源ボタンを押す 電源が入ると、装置前面の電源ランプが緑色に点灯します。
- 2 パソコンの電源をONにする



(注)図と異なる場合があります。

# 電源の切り方

- 1 パソコンの電源をOFFにする
- 2 装置前面にある電源ボタンを押す 装置前面の電源ランプは消灯します。

# 2 ドライブの認識確認

ドライバのインストールが終了し、パソコンと本装置が正常に接続されている と、「リムーバブルディスク」のアイコンが表示されます。Windowsのデスク トップから「マイコンピュータ」の中に表示されているか確認してください。

1 「マイコンピュータ」のアイコンをダブルク リックする

「マイコンピュータ」の中に「リ ムーバブルディスク」のアイコンが 表示されていれば正常に接続されて います。



「リムーバブルディスク」のアイコンが見つからなかった場合は、[F5]キーを 押すか、再度機器の設定を確認し、パソコン本体の電源を入れ直してみてくだ さい。それでも表示されない場合は、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してく ださい)」までお問い合わせしてください。

MOディスクの使用

### MOディスクの挿入

MFィスクは、図のようにラベル面を上 向きにしてMOディスク挿入ロへ挿入しま す。MOディスクの中央部を押してMOディ スク挿入口にまっすぐに挿入します。MO ディスクが奥に突き当たるまで確実に押 し込んでください。

MOディスクがセットされると、モーター が回転し始めます。モーターの回転が安 定し、MOディスクに読み書きできる状態 になるまで、数秒かかります。この間、 BUSYランプが橙色に点灯します。



 ${1_{\widehat{1}}}$ 

本装置の使い

方

53

- お願い・MDディスクを逆向きや斜めに挿入したり、無理やり押し込んだりしないでくだ さい。MDディスクや装置内部を損傷し、故障の原因になります。
  - ・本装置で使用できないディスク(3.5型のフロッピーディスクなど)を誤って 挿入しないように注意してください。
  - ・MOディスクのインデックスシールはMOディスクに付属のシールを正しく貼って ください。付属シール以外のシールを貼り付けたり、はがれかかった状態で使 用すると故障の原因になります。

### MOディスクの取り出し

本装置のイジェクトボタンを押すとMOディスクを取り出せます。

- f 1 BUSYランプが橙色に点灯していないことを確認する
- 2 本装置のイジェクトボタン を押す

自動的にMOディスクが出てきます。

3 MOディスクを取り出す



### MOディスクを取り出せない場合

停電などで、本装置、パソコン本体側でトラブルや故障などの理由により、通常の方法で、MOディスクを本装置から取り出せなくなった場合は、付属の手動 排出用ピンでMOディスクを取り出すことができます。

MOディスクの手動排出を行うには、パソコン、本装置および本装置以外の周辺 機器の電源をOFFの状態にしてしばらく待ってください。

#### MOディスク ロックの解除

イジェクトボタンを押してもMOディスクが取り出せないときは、本装置の電源 を切り、再度電源を入れるとイジェクトボタンで取り出すことができます。

#### MOディスク ロックの強制解除

MOディスクにデータ書き込み中の故障、停電などでイジェクトボタンを押してもMOディスクが取り出せないときはMOディスク手動排出穴に付属の手動排 出用ピンを使用してロックを強制的に解除し、MOディスクを取り出すことができます。

- お願い MOディスクの回転が止まらないときは、ACアダプタをコンセントから抜いて、完 全に回転を止めてください。回転中にMOディスクを取りはずすとMOディスクがこ われることがあります。
- 1 MOディスク手動排出穴に手 動排出用ピンを挿入する MOディスクを取り出すことができま す。

2 MOディスクを取り出す



⚠注

意・MOディスクの手動排出は、電源がONのときは絶対に行わないでください。 回転中のMOディスクが損傷したり、本装置の故障の原因になることがあります。
・付属の手動排出用ピン以外のものを使用してMOディスクの手動排出を行わな。

- いでください。MOディスクの損傷、装置の故障の原因となります。 ・頻繁にMOディスクが取り出せなくなり、本装置が故障かなと思われる場合は、
- お買い上げの販売店または「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」 までご相談ください。

本装置の使

11

方

### MOディスクのフォーマット

#### Windows98の場合

新しいMOディスクを使用する場合は、フロッピーディスクなどの記録媒体と同様に、MOディスクもフォーマットする必要があります。Windows98は、標準でMOディスクのフォーマット機能(論理フォーマット)を持っているため、MOディスクを簡単にフォーマットすることができます。

- 1 Мのディスクを本装置に挿入する
- 2 デスクトップにある「マイコンピュータ」のアイコンを ダブルクリックする
- 3「リムーバブルディスク」 のアイコンを右クリック し、「フォーマット」を選 択する



[フォーマット] 画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」に チェックを入れ、「開始」 ボタンをクリックする

容量( <u>P)</u> :		
ХХХ МВ	-	開始(S)
<ul> <li>フォーマットの種類</li> <li>クイックフォーマット(Q)</li> <li>通常のフォーマット(E)</li> <li>記動専用(Q)</li> </ul>		閉じる( <u>C</u> )
-オプション	_	
厂 ボリューム ラベルなし(N) ▼ 結果レポートの表示(D)		
🗖 システム ファイルのコピー(Y)		

右の画面が表示されます。



- 5 「OK」ボタンをクリックする フォーマットが始まります。約1分間でフォーマットは終了します。 終了後、[フォーマット結果]画面が表示されます。
- 6「閉じる」ボタンをクリッ クする

A ANTINGAN DEA ATANKA	「イスク(F:)	×
全ディスク領域:	XXXXXXXX /5715	
システムが使用している領域:	0 /አብኑ	
不良セクタ:	0 /%/ F	
利用可能ディスク領域:	XXXXXXXXX /5715	
アロケーション ユニット サイズ:	<i>₩₩</i> ₩	
アロケーション ユニット数:	××××× (B	
シリアル番号:	15F8-2373	
( <del>];</del>	103	

#### 7 「OK」ボタンをクリックする

これでフォーマットは終了です。

右の画面が表示されます。

フォーマット終了後、スキャンディスクのヘルプ画面が表示される場合があり ますが、一般的にはスキャンディスクを行う必要はありません。

ー度フォーマットしたMOディスクは、以後フォーマットする必要はありません。再度フォーマットを行うと、MOディスクに保存していたデータは全て消えるため、作業の前にフォーマットを行ってよいMOディスクかどうかを確認してください。

#### <u>Windows Meの場合</u>

新しいMOディスクを使用する場合は、フロッピーディスクなどの記録媒体と 同様に、MOディスクもフォーマットする必要があります。 Windows Meは、標準でMOディスクのフォーマット機能(論理フォーマット)を 持っているため、MOディスクを簡単にフォーマットすることができます。

- 1 Мのディスクを本装置に挿入する
- 2 デスクトップにある「マイコンピュータ」のアイコンを ダブルクリックする
- 3「リムーバブルディスク」 のアイコンを右クリック し、「フォーマット」を選 択する



[フォーマット] 画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」に チェックを入れ、「開始」 ボタンをクリックする

フォーマット - リムーバブル ディスク (E:)	? ×
容量(P):	
XXX MB	開始(S)
フォーマットの種類――	
<ul> <li>クイック フォーマット(Q)</li> </ul>	14109/0
● 通常のフォーマット(E)	
┌─オプション ────	
ボリュームラベル(L):	
TOSHIBA	
□ ボリューム ラベルなし(N)	
▼ 結果レポートの表示(D)	

本装置の使い

方

右の画面が表示されます。

7#-7%	トーリムーバブル ディスク (E) 🔀
8	このドライブはハード ディスクまたは大容量リムーバブル ディスクです。フォーマットするとこのディスクのデータはすべて失われ ます。フォーマットしてもよろしいですか?

- 5 「OK」ボタンをクリックする フォーマットが始まります。約1分間でフォーマットは終了します。 終了後、[フォーマット結果]画面が表示されます。
- 6「閉じる」ボタンをクリッ クする

フォーマット結果 - リムーバブル デ	ィスク (E)	×
全ディスク領域:	XXXXXXXX /Y/F	
システムが使用している領域:	0 /ናብ ኮ	
不良セクタ:	0 /ናብ ኮ	
使用可能ディスク領域:	XXXXXXXXX/i/IF	
アロケーション ユニット サイズ :	XXXXX/171-	
アロケーション ユニット数:	××××× (B	
シリアル番号:	16D7-2112	
	103	

右の画面が表示されます。

フォーマット	- 94-1/7/J 7420 (E)
٩	このディスクをフォーマットしました。ディスクを使う面に、スキャンディスクの完全チェックを実行し、デーがパディスクのどの機械 にでも安全に保存されるように確認してください。
	(OK)

#### 7 「OK」ボタンをクリックする

これでフォーマットは終了です。

フォーマット終了後、スキャンディスクのヘルプ画面が表示される場合があり ますが、一般的にはスキャンディスクを行う必要はありません。

ー度フォーマットしたMOディスクは、以後フォーマットする必要はありません。再度フォーマットを行うと、MOディスクに保存していたデータは全て消えるため、作業の前にフォーマットを行ってよいMOディスクかどうかを確認してください。

#### Windows2000の場合

新しいMOディスクを使用する場合は、フロッピーディスクなどの記録媒体と 同様に、MOディスクもフォーマットする必要があります。Windows2000は標 準でMOディスクのフォーマット機能(論理フォーマット)を持っているた め、MOディスクを簡単にフォーマットすることができます。

- 1 Мのディスクを本装置に挿入する
- 2 デスクトップにある「マイコンピュータ」のアイコンを ダブルクリックする
- 3「リムーバブルディスク」 のアイコンを右クリック し、「フォーマット」を選 択する



[フォーマット] 画面が表示されます。

4 「開始」ボタンをクリック する

「クイックフォーマット」にチェッ クは入れないでください。

72	ォーマット E¥	? ×
	容量( <u>P</u> ):	
	不明な容量	•
	ファイル システム(E)	
	FAT	-
	アロケーション ユニット サイズ( <u>A</u> )	
	標準のアロケーション サイズ	-
	ボリューム ラベル(止)	
	」 ┌─フォ〜マットオプション@────	
	<ul> <li>□ クイック フォーマット(Q)</li> <li>□ 圧縮を有効にする(E)</li> </ul>	
	開始( <u>S</u> )	閉じる(©)

右の画面が表示されます。

一 警告: フォーマットするとこのディスクのすべてのデータが消去されます。 ディスクをフォーマットするには [OK] を、終了する場合は [キャンセル] をクリックしてください。	
<u> の K キャンセル </u>	

- 5 「OK」ボタンをクリックする フォーマットが始まります。約1分間でフォーマットは終了します。 終了後、以下の画面が表示されます。
- **6**「OK」ボタンをクリックする



これでフォーマットは終了です。

ー度フォーマットしたMOディスクは、以後フォーマットする必要はありません。再度フォーマットを行うと、MOディスクに保存していたデータは全て消えるため、作業の前にフォーマットを行ってよいMOディスクかどうかを確認してください。

お願い・Windows2000の標準のフォーマット機能を使用するには、アドミニストレータの権限でログインする必要があります。
 ・Windows2000の標準のフォーマット機能では、物理フォーマットはできません。物理フォーマットを行う場合は、別途、Windows2000対応のフォーマットソフトをご利用ください。

## MOディスクにファイルをコピーする

文書などのファイルやデータは、フロッピーディスクと同じように、マウスを 使ったドラッグアンドドロップでMOディスクにコピーできます。

ここでは例として、「会議日程」というファイルをコピーしてみます。 ※会議日程のファイルは実際に存在しません。

- [] × - 0 × 1 「会議日程」のアイコンを ファイル(E) 編集(E) 表示 » ファイル(E) 編集(E) 表 > 10 MOディスクのアイコンまで ←戻る - → - 白 ②検索 \* や戻る・⇒・国 アドレス(1) 「シビュータ マ 戸移動 アドレス(型) 🗀 会議日利平 🧼移動 ドラッグする \_ 3.5 インチ FD S3A0404A001 マウスカーソルをアイコンに重ねて 会議日程 左ボタンを押したまま、MOディスク CD-ROM (D.) リムー片方( のアイコンまで移動してください。 コントロールパ

2 「会議日程」のファイルと、リムーバブルディスクのア イコンが重なったところでマウスのボタンを離す

個のオブジェ

Q 71 1 /

マイ コンピュー 5 バイト

メ モ MOディスクは、フロッピーディスクと同じように、はじめにフォーマット(初期化)が必要です。フォーマットされていないMOディスクは、ファイルのコピーはできません。

🛄 マイ ゴ

### MOディスクのバックアップについて

本装置はお客様の貴重なデータをお預かりするために、品質については非常に 厳しくチェックをしておりますが、MOディスクも、他の記録媒体と同様に、 データの安全性が100%保証されているものではありません。

不幸にして、書き込み時の停電、装置トラブル(パソコン側の暴走、故障、本装置の突然の故障)、デバイスドライバおよびオペレーティングシステムの問題で トラブルなどが発生した場合、データ破壊の懸念は避けられません。

欧米などでは、すでに記憶装置のトラブル対処方法として、データバックアッ プという考え方が一般的です。万一のトラブルに備えて、MOディスクのデータ のバックアップをお勧めします。

具体的には、「MOディスクを2枚用意し、奇数日と偶数日の交互に別々のMOディ スクにアップデートしたデータを記録する。」といった方法があります。この 場合、万がーデータが破壊されても、前日までのデータは存在します。当然な がらバックアップの頻度を多くすれば多くするほど、データ破壊がおきても被 害は少なくなりますが、MOディスクの使用量や運用が煩雑になりますので、適切 な頻度をお選びください。



大切なデータについては、万一に備えて、バックアップをおとりください。

# 4 パソコンをご購入時の状態にした場合

パソコンをリカバリCD等でご購入時の状態に戻した場合、本装置のドライバを 再インストールする必要があります。 再インストールについては「第2章 ドライバの設定」を参照してください。



# 故障かな?と思ったら

「ドライブが認識しない……」などの困ったときの対処方 法や本機の仕様について説明しています。

# 1 まず確認してください

USB接続時にトラブルが発生したときは、まず次の項目を確認してください。これらは、USBの接続で、多くのトラブルの原因となっている一般的なものです。

# セクター長2048バイトの640MBのMOディスクを使用する場合、補助ドライバをインストールしていますか?

Windows98(Second Editionを含む)/Windows Me上で、セクタ長が2048Byteの 640MB MOディスクを使用する場合、システムが不安定になる場合があります。 付属の「セットアップディスク(FD)」の中の「IOSFIX」を組み込んでください。

#### 本装置およびその他の周辺機器 パソコンの順に電源を ONにしていますか?

本装置およびその他の周辺機器→パソコンの順に電源をONにしない場合、本 装置がパソコンに認識されない場合があります。

#### 本装置は確実にパソコンのUSBポートに接続されていますか?

パソコンと本装置がUSBケーブルで確実に接続されているか確認してください。

# 2 トラブルシューティング

本装置が正常に動作しなかったり、何らかの問題が発生したと思われる時は、ここを お読みになり役立ててください。

それでもなお解決できない場合は、「7章 修理サービスのご案内 1ユーザサポート 窓口のご案内」をご覧のうえ、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」に ご相談ください。

トラブルの原因には、本装置に関するハードウェア的な問題だけではないことがあり ます。問題が発生したときは、同時にご使用になるパソコン本体、他の周辺機器の取 扱説明書もご参照ください。

また、オペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなどのソ フトウェアが原因の場合もありますので、それらの取扱説明書もご参照ください。

#### Q1:電源ランプ(緑)が点灯しない。

■装置に電源が供給されていません。次の点を確認してください。

- ・ ACアダプタが正しく接続されているか。
- ・ コンセントに電源が供給されているか。
- ・ 電源ボタンがONになっているか。

#### Q2:電源ランプが橙色の点滅を繰り返す(約2秒間隔)だけ で、読み書きしない。

- ■装置内部が異常な高温になっている可能性があります。まず、次の点を確認してください。
- ・使用環境温度が35℃を超えていないか。
- ■それでも解決しない場合は、次の点を確認してください。
- ・MOディスクの記録面が汚れていないか。
- ・本装置が対応していないMOディスクを使用していないか。

「1章 ③取り扱いについて」の「使用できるMOディスク」をご参照くだ さい。

・室温よりも異常に低温または高温となったMOディスクを使用していないか。

#### Q3:電源ランプが橙色の点滅を繰り返す(約0.5秒間隔)だ けで、読み書きしない。

■本装置に故障が発生している可能性を示しています。本装置をパソコンから はずした状態で、再度MOディスクを入れ直してみたり、電源を入れ直してく ださい。それでも、点滅を繰り返す場合は、お買い上げの販売店、または 「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」までご連絡ください。 Q4:MOディスクが挿入できない。

■次のことを確認してください。

- ・ MOディスクの挿入方向を確認してください。
- ・ すでに別のMOディスクが挿入されていないか確認してください。
- ・ MOディスク以外のディスクを挿入していないか確認してください。

#### Q5:パソコンがスリープモードから復旧するとシステム がハングアップしているなど不安定になる。

■スリープモードをOFFにして確認してください。

#### Q6:パソコンのハングアップなどにより、本装置の電源 ボタンで電源を0FFできない。

■パソコンの電源をOFFにして、本装置のBUSYランプの消灯を確認してくだ さい。その後、本装置の電源ボタンで電源をOFFにしてください。

#### Q7:イジェクトボタンを押してもMOディスクが取り出せ ない。

■次のことを確認してください。

- ・ご使用になる環境(パソコン、オペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によっては、単にイジェクトボタンを押してもMOディスクが排出されないようになっている場合があります。この場合は、MOディスクの手動排出を行わずに、正しい手順にしたがって排出してください。その他の場合は、本装置をパソコンからはずした状態で電源を0FF/ONし、イジェクトボタンを押してMOディスクが排出されるか、確認してください。
- ・パソコン側でトラブルが発生し、MOディスクが排出できない状態になって いる場合もあります。このようなときは、電源を切ってから手動排出用ピ ンを使用し、MOディスクを手動で排出してください。

■MOディスクの手動排出の方法

停電などで、本装置、パソコン本体側でトラブルや故障などの理由により、 通常の方法で、MOディスクを本装置から取り出せなくなった場合は、付属の 手動排出用ピンでMOディスクを取り出すことができます。

MOディスクの手動排出を行うには、パソコン、本装置および本装置以外の周辺機器の電源をOFFの状態にしてしばらく待ってください。次に、図のように、付属の手動排出用ピンを装置前面のMOディスク手動排出穴に差し込んで、水平に強く押すことで、MOディスクを取り出すことができます。



注 意 ・MOディスクの手動排出は、電源がONのときは絶対に行わないでください。
 回転中のMOディスクが損傷したり、本装置の故障の原因になることがあります。
 ・付属の手動排出用ピン以外のものを使用してMOディスクの手動排出を行わな

いでください。MOディスクの損傷、装置の故障の原因となります。 ・頻繁にMOディスクが取り出せなくなり、本装置が故障かなと思われる場合は、 お買い上げの販売店または「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」 までご相談ください。

#### Q8:パソコンが起動しない。

- ■まず、本装置をはずした状態で、パソコンが起動するかどうかをご確認く ださい。
- 本装置をはずした状態でパソコンが起動しない場合は、パソコン本体に問題があると思われます。パソコンに付属の取扱説明書を参照し、パソコンの設定を再度確認してください。
- ・本装置をはずすとパソコンが起動する場合は、本装置側の設定、USBケーブルに問題があります。「本章 1まず確認してください」に記載してある 項目を必ずお調べください。

Q9:本装置またはMOディスクが認識されない。

- ■「本章 1まず確認してください」に記載してある項目は必ずお調べください。 それでも解決されない場合は、ご使用のパソコンごとに次のことを確認し てください。
- ■Windows98/Windows Meの場合
- ・USBは正常にパソコンに認識されていますか?
   コントロールパネルのシステムのプロパティからデバイスマネージャのページを開き、USBに「×」や「!」マークが付いていないか確認してください。
   「×」や「!」マークが付いている場合はUSBの設定を再確認してください。
   また、「?」マークが付いているデバイスもご確認ください。USBが誤って認識されていることがあります。
   この場合は、一度ドライバのアンインストーラ(uninstall.exe)を起動さ
  - せてドライバを一度はずしてから、再度ドライバをインストールしてくだ さい。ドライバのインストール/アンインストールについては、「2章 ドライバの設定」を参照してください。
- ■Windows2000の場合
- ・USBは正常にパソコンに認識されていますか? コントロールパネルのシステムからハードウェアのページを開き、デバイ スマネージャのプロパティからUSBに「×」や「!」マークが付いていないか 確認してください。「×」や「!」マークが付いている場合はUSBの設定を再 確認してください。

また、「?」マークが付いているデバイスもご確認ください。場合によってはUSBが誤って認識されていることがあります。

#### Q10: データの読み取りができない。

- ■別の装置で書き込んだMOディスクや、ご使用の環境に合わないフォーマット形式は、読み取りができない場合があります。
- ・急激な温度変化のために、MOディスクや装置内部が結露している可能性も あります。1時間以上待ってからお使いください。

#### Q11:データの書き込みができない。

- MOディスクのライトプロテクトスイッチがライトプロテクト側にセットされていると、書き込みはできません。
   「1章 ③取り扱いについての「MOディスクを書き込み禁止にする」をご
  - 参照ください。
- ・MOディスクがフォーマットされていなかったり、ご使用の環境にあわない フォーマット形式の場合は、書き込みができません。
- ・使用環境温度が5℃以下の場合は、読み取りはできても書き込みはできないことがあります。
- ・急激な温度変化のために、MOディスクや装置内部が結露している可能性も あります。1時間以上待ってからお使いください。

#### Q12:別の装置で書き込んだMOディスクが、本装置で読 み取れない。

■次のことを確認してください。

- ・MOディスクのフォーマット形式は、パソコンやオペレーティングシステム によって異なります。例えば、MacintoshでフォーマットしたMOディスク は、DOS/V機(PC/AT互換機)で読み書きすることはできません。
- ・同じ種類のパソコンやオペレーティングシステムでも、デバイスドライバ やフォーマットソフトによってMOディスクのフォーマット形式が異なる場 合があります。とくにDOS/V機(PC/AT互換機)では、いくつものフォーマ ット形式があるので注意が必要です。

Q13:フォーマット時間が異常に長い。

・MOディスクの物理フォーマットに要する時間は、640MB MOディスクの場合 約17分です。論理フォーマットは、数十秒です。 MOディスクに汚れや傷などがあると、フォーマット時間が異常に長くなる ことがありますので、このような場合には、MOディスクのクリーニングを 行うか、新しいMOディスクに交換してください。 障

かな?と思ったら


付録

本製品の仕様、本書で使われている専門用語の解説について説明しています。

# 1 製品仕様

USB接続時にトラブルが発生したときは、まず次の項目を確認してください。これらは、USBの接続で、多くのトラブルの原因となっている一般的なものです。

## 本装置

商品名	USB MOドライブ 640MB
型名	IPC5034A
形式	書き換え可能型3.5型光磁気ディスク駆動装置
記憶容量	128MB、230MB、540MB、640MB
オーバーライト対応	230MB、 540MB、 640MB
連続データ転送速度	最大1.5MB/s
ディスク回転速度	3,000rpm(=r/min)
インターフェース	USB1. 1
キャッシュサイズ	2MB
ACアダプタ	AC100V 50/60Hz
消費電力	最大10W
環境温度	動作時:+5℃~+35℃非動作時:-30℃~+65℃
環境湿度	動作時:10%~80%非動作時:5%~90%
設置方向	縦置き(片側のみ)・横置き
USBコネクタ	Bタイプ
寸法	37mm×119mm×151mm(高さ×幅×奥行)
	(スタンドは含まず)
重量	500g(ACアダプタは含まず)



※仕様は改良などのため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

## ACアダプタ

形式	スイッチングタイプACアダプタ
入力	AC100V, 50-60Hz
出力	DC5V 1.6A
使用場所	屋内および日本国内専用

## あいうえお順

、オーバーライト overwrite

ダイレクトオーバーライトとも呼ばれます。データをMOディスクに書き込むに は、「消去」→「書き込み」→「ベリファイ」の3行程を必要としますが、このうち 「消去」→「書き込み」の行程を同時に実行し、書き込み速度を上げる記録方法を オーバーライトといいます。この記録方法を用いるには、光磁気ディスクとド ライブの両方が対応している必要があります。

#### オペレーティングシステム Operating System

OSと略す。パソコンのソフトウェアのもっとも基本的な部分で、CPUやメモリー の管理、周辺機器の制御、プログラムの実行管理などの機能を提供します。 MacintoshではMacOS、DOS/V機(PC/AT互換機)ではWindows98、Windows2000が主 要なオペレーティングシステムです。

#### キャッシュ cache

ディスク装置などへのデータの読み書きを高速化するためのメモリのことで す。本装置では、大容量のメモリを内蔵し、データの書き込みを高速化するた めに、ライトキャッシュとして使用しています。また、MOディスクに記録され ているデータを先読みしてメモリに取り込み、パソコンへ転送する速度を高速 化するリードキャッシュ機能も持っています。

#### シークタイム seek time

ヘッドを目的のトラックに移動させるのに要する時間でms(ミリセコンド1/ 1,000秒)で表わします。トラックの位置によってシークタイムは異なるので、 通常はその平均値(平均シークタイム)をとります。シークタイムが短いほど、 データの読み書きのスピードが速くなります。

#### セクタ sector

ハードディスクやMOディスクなどにおける記録単位の一つです。ディスク上に 並ぶ同心円で区切られた一つ一つをトラックと呼び、トラックはさらに使用最 小単位であるセクターに区切られています。128MB、230MB、540MBのMOディスク のセクター長は512バイトで、640MBのMOディスクのセクタ長は2,048バイトにな ります。

 $\delta_{\hat{a}}$ 

付

録

#### データバッファ data buffer

データを一時的に格納しておくメモリのことです。パソコン本体とディスク装置などの、データ処理速度のギャップを埋めるために使われます。

#### デバイスドライバ device driver

さまざまな周辺機器を制御するためのソフトウェアです。デバイスドライバは、接続される機器に応じてオペレーティングシステムに組み込まなければな りません。

#### 光磁気ディスク magneto-optical disc

MOディスクとも呼ばれます。光磁気ディスクは、レーザー光と磁気を使って読み書きを行う記録媒体です。光磁気ディスクへのデータの記録は、記録面にある磁場の向きを変化させることによって行います。光磁気ディスクからデータを読み出すときは、磁性体にレーザー光を当て、その反射光によって磁場の向きを調べます。また、書き込みは、ディスクの磁性体にレーザー光を当てながら磁気を与えて、磁場の向きを変化させます。

#### フォーマット format

初期化とも呼ばれます。ディスク装置で読み書きを行うために、あらかじめ ディスクに対して行っておく準備作業のことです。フォーマットは、物理 フォーマット(ローレベルフォーマット)と論理フォーマット(ハイレベルフォー マット)の2つに分かれます。

物理フォーマットとは、使用可能なディスクを作成するために、事前に不良の セクタを除外してディスクの表面にトラックとセクタを編成することです。論 理フォーマットとは、物理フォーマットが終了した後に行うもので、オペレー ティングシステムのボリュームデータ構造をインストールし、パーティション を設定するものです。使用するオペレーティングシステムにより形式(フォー マット)が異なります。通常、MOディスクは「物理フォーマット」された状態で工 場出荷されていますが、市販のフォーマット済みディスクと呼ばれるMOディス クは、さらに、「論理フォーマット」された状態で出荷されています。 なお、Macintoshの場合は、一般的に物理フォーマットを「フォーマット」、論 理フォーマットを「イニシャライズ」と記述する場合があります。

#### プラグ・アンド・プレイ Plug and Play

PnPと略します。Windows98およびWindows2000では、OSレベルでプラグアンド プレイをサポートしています。拡張ボードや周辺機器などをパソコンに接続す るだけで、ディップスイッチなどの設定をすることなくすぐに使えることで す。完全に自動でできるには使用する機器がすべてプラグアンドプレイに対応 している必要があります。

連続データ転送速度 continuous data transfer speed

MOディスク上のデータを連続的に読み出す、あるいは書き込む時のデータ転送速 度です。MB/s(メガバイト・パーセコンド:1秒間に何MBのデータを転送できるか)で 表します。この数値が大きいほど、データの読み書きの速度が速くなります。

### アルファベット順

FireWire ファイヤーワイヤー IEEE1394

#### IEEE アイトリプルイー

Institute of Electrical and Electronic Engineers 米国電気電子技術者協会。

#### IEEE1394 アイトリプルイー1394

IEEEが定めたコンピュータ用の高速シリアル通信の規格です。IEEE1394規格では、パソコン側から各機器に電源供給できる6ピン仕様が基本ですが、ACアダプタなどの電源が用意されている機器には、電源供給用のピンを2本省略した4ピン仕様の端子もあります。アップル社ではFireWireと呼ばれています。i-Linkとも言います。

#### MOディスク エムオーディスク 光磁気ディスク

#### rpm アールピーエム

Revolution Per Minute

MOディスクの毎分の回転速度の単位です。国際単位系(SI単位)では、毎秒の回転数 を表示する形式に統一され、4,643rpmの場合約77s-1と記されます。回転速度が高 いほど、データの読み書きが速くなります。r/minとも表記されます。

6<sub>=</sub>

77

#### SCSI/SCSI-2 スカジー/スカジー2

Small Computer System Interface パソコンやワークステーションと周辺機器とを 接続するためのインターフェース規格です。パソコン本体には、最大7台までの SCSI機器をデイジーチェーンで接続できます。転送スピードなどの仕様により SCSI-1、SCSI-2、SCSI-3などの規格に分かれます。

#### SCSI-BIOS スカジー・バイオス

SCSIボードのハードウェア設定や周辺機器との接続を行うソフトウェアで、一般に SCSIボード上のROM(読み出し専用メモリ)に書き込まれています。

#### SCSI ID スカジー・アイディ

SCSIインターフェースに接続された各SCSI機器を識別するためのID(番号)です。各 SCSI機器には0~7のIDをそれぞれが重複しないように割り当てる必要があります。 パソコン本体のSCSIインターフェースにもIDが必要です。

#### USB ユーエスビー

Universal Serial Bus

最大127台のUSB対応機器を接続できるインターフェースです。USBポートが足りないときは、USBハブを仲介させることで、複数台のUSB機器を接続できます。



# 修理サービスのご案内

技術的なご質問、修理のご依頼、お問い合わせについて説 明しています。

# 1 ユーザサポート窓口のご案内

●異常や故障が発生したら、次の ①~③の内容をご確認のうえ、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してください)」までご連絡ください。

①使用している機器の名称

②ご購入年月日、ご購入先

③現在の状態(できるだけ詳細に)

- ●保証期間中の修理については、保証書の記載内容により、無料修理いたします。
- ●保証期間経過後の修理については、「お客様ご相談窓口(巻末を参照してく ださい)」までご連絡ください。修理によって機能が維持できる場合は、お 客様のご要望により有料修理させていただきます。

(修理に代わって同等品と交換させていただくことがあります)

- ●海外での修理サービスについて 本製品の仕様は日本国内向けとなっておりますので、海外では修理をお受け することはできません。
- ●郵送で修理依頼される場合のお願い
  - ・郵送される場合の郵送料金、梱包費用は保証期間の有無を問わずお客様の ご負担となります。
  - ・保証期間中の場合は、保証書を商品に添付してください。
  - ・保証期間経過後の修理については、お見積もりの必要の有無、または修理 費限度額および連絡先を明示のうえ、商品に添付してください。
- 修理依頼品は緩衝材に包んでダンボール箱(本製品の梱包箱、梱包材を推 奨します)に入れるか、または郵送用の袋(メールバッグ→文具店などで お買い求めいただけます)などに入れて、お送りください。
- 2. 郵送は簡易書留をご利用ください。

送付先 株式会社東芝デジタルメディアネットワーク社 PC サービス・サポート事業部 IOS センター 〒101- 0021 東京都千代田区外神田1- 8- 13 東芝秋葉原ビル1F 電 話 03-3252-3063

## ΜΕΜΟ

#### 日本国内用です

本機を使用できるのは日本国内のみです。

This product can not be used in foreign country as designed for Japan only.

#### お客様ご相談窓口

この製品のアフターサービスは、下記の「お問い合わせ先」にて承っております。

この製品のご使用上のお問い合わせ窓口	
◆受付時間◆ 9:00~12:00 13:00~17:00 土曜、日曜、祝祭日、指定休日を除く	
東芝PC IOSセンター TEL 03-3252-3063 FAX 03-3257-3405	

